

米国 ハリケーンの影響が弱まり小幅拡大(17年9月鉱工業生産)

: 2017年10月18日(水)

～9月の生産はハリケーンによって0.25%p押し下げ～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

	鉱工業生産		業種別						設備稼働率	生産能力	
	前月比	前年同月比	製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	製造業 (SIC)	生産能力	
16/09	▲0.2	(▲1.2)	+0.2	▲0.3	▲2.8	+1.3	+0.2	+0.4	+75.6	+74.9	+0.1
16/10	+0.2	(▲0.8)	+0.2	+2.0	▲1.9	+1.5	+0.3	+0.8	+75.7	+75.0	+0.1
16/11	▲0.2	(▲0.4)	+0.2	▲0.1	▲3.3	+0.7	+0.1	▲1.4	+75.5	+75.1	+0.1
16/12	+0.8	(+0.8)	+0.2	▲0.4	+6.9	+0.5	+0.2	+1.3	+76.0	+75.2	+0.1
17/01	▲0.3	(▲0.0)	+0.4	+1.4	▲7.2	▲0.9	+0.5	▲1.1	+75.7	+75.4	+0.1
17/02	+0.2	(+0.4)	+0.3	+3.6	▲4.8	▲1.9	+0.5	+1.2	+75.8	+75.6	+0.1
17/03	+0.2	(+1.4)	▲0.7	▲0.4	+8.2	+0.1	▲0.8	▲3.6	+75.9	+75.1	+0.1
17/04	+1.1	(+2.1)	+1.3	+0.6	+0.2	+2.0	+1.4	+4.2	+76.6	+76.0	+0.1
17/05	▲0.0	(+2.2)	▲0.6	+0.8	+2.7	+0.2	▲0.7	▲2.4	+76.5	+75.5	+0.1
17/06	+0.2	(+2.1)	+0.2	+1.3	▲1.0	▲0.3	+0.2	▲0.7	+76.6	+75.6	+0.1
17/07	▲0.1	(+1.8)	▲0.4	+0.5	+0.5	▲1.5	▲0.2	▲4.8	+76.5	+75.3	+0.1
17/08	▲0.7	(+1.2)	▲0.2	▲0.2	▲4.9	+0.4	▲0.3	+3.6	+75.8	+75.1	+0.1
17/09	+0.3	(+1.6)	+0.1	+0.4	+1.5	+1.7	+0.1	+0.1	+76.0	+75.1	+0.1

9月の鉱工業生産は前月比+0.3%と3ヵ月ぶりの拡大

17年9月の鉱工業生産は、前月比+0.3%と市場予想と一致した。ハリケーンの影響で生産活動の制限を受けた製造業が前月比+0.1%と市場予想の+0.2%を下回った一方、鉱業が前月比+0.4%、公益事業が同+1.5%と増加に転じた。9月の鉱工業生産は、大型ハリケーン「ハービー」、「イルマ」の影響によって0.25%p押し下げられるなかで、前月比+0.3%と拡大に転じたことから、緩やかな拡大基調を維持していると判断される。

業種別では、航空機・その他輸送設備、繊維、紙、印刷・同サポートが減少に転じたうえ、一次金属、自動車・同部品は鈍化した。また、その他耐久財、アパレルに加えて、ハリケーンの影響を大きく受けた化学、石油・石炭が減少幅を拡大した。一方、木材、非鉄、一般機械、電気設備・部品、プラスチック・ゴム製品が増加に転じたほか、加工金属、コンピューター・電子機器、家具・関連製品、食品・飲料・タバコが加速した。また、その他製造業は横ばいになった。

稼働率では、設備投資の持ち直しによる生産能力の拡大が続くなかで、生産が増加に転じたことを背景に鉱工業全体が76.0%（前月75.8%）と上昇した（市場予想76.2%）。また、製造業では生産が小幅拡大にとどまったことによって75.1%（前月75.1%）と変わらずとなった。

7-9月期の生産活動はハリケーンで失速したが、この影響を除けば拡大基調を維持した模様

四半期では、7-9月期の製造業生産（平均）は、一般機械、コンピューター・電子機器、自動車・同部品のほか、ハリケーンの影響を強く受けた石油・石炭や化学の減少によって、前期比年率▲2.2%と4-6月期の同+2.5%からマイナスに転じた。また、7-9月期の鉱工業生産（平均）は鉱業の鈍化や、製造業、公益事業の減少を背景に前期比年率▲1.5%と4-6月期の同+5.6%から失速した。ただし、ハリケーンの影響を

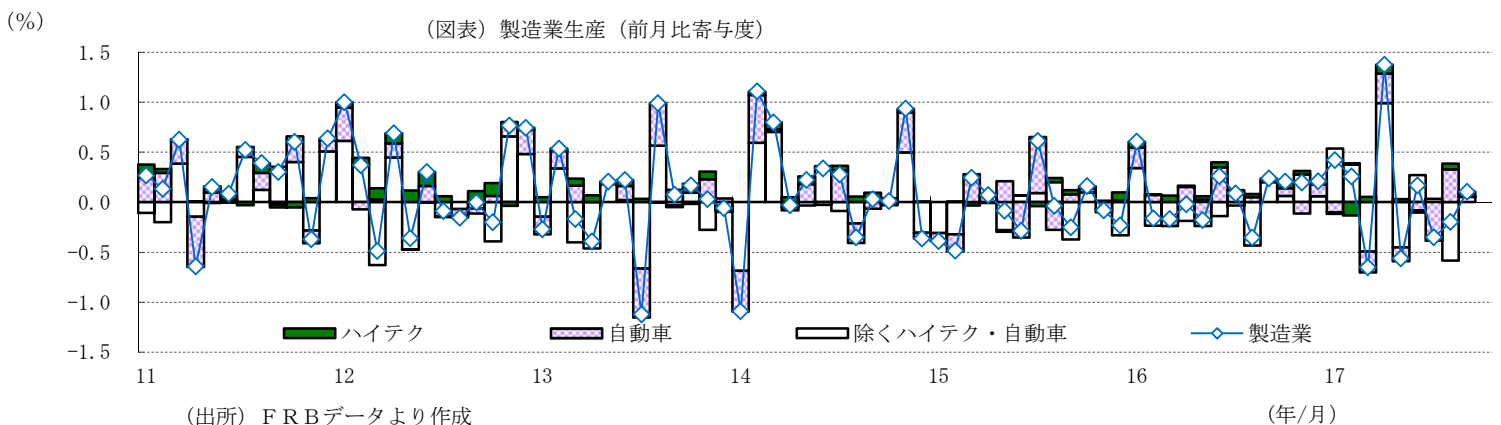
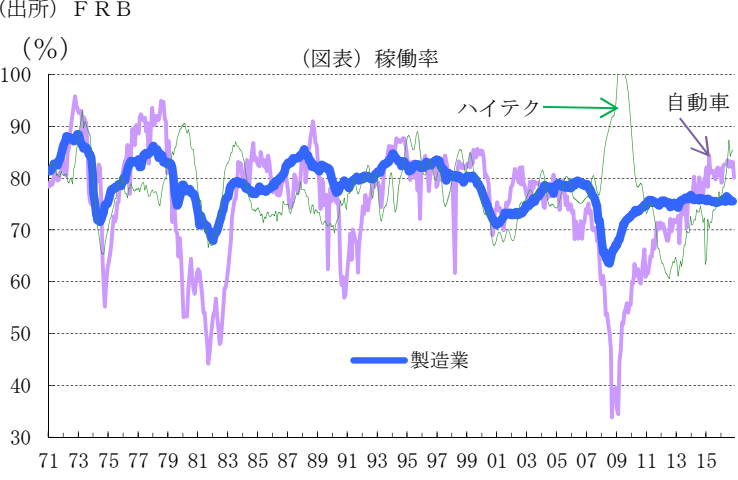
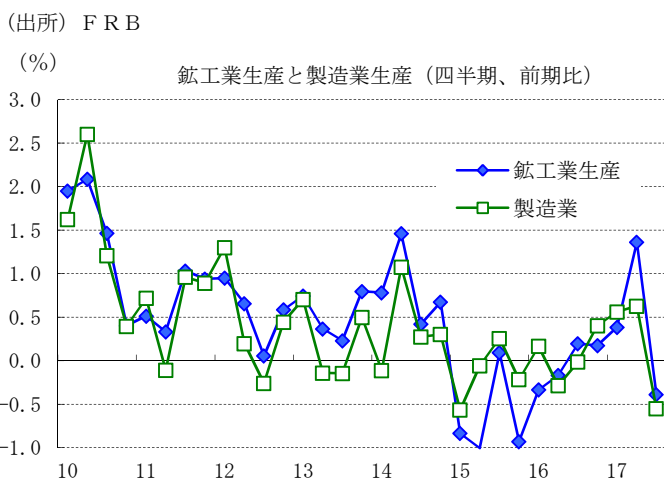
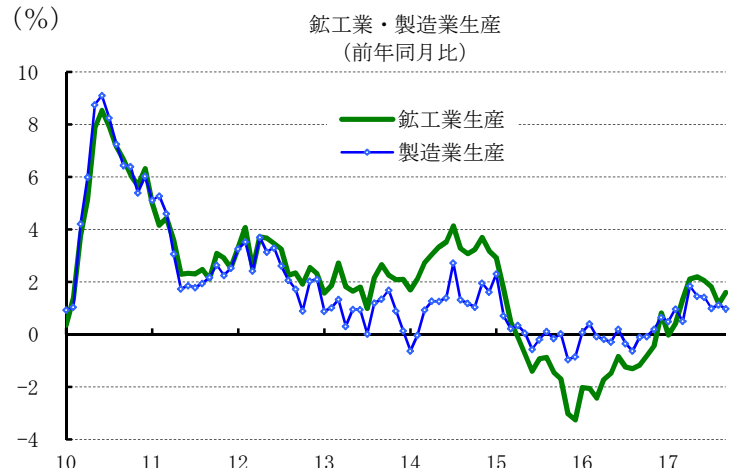
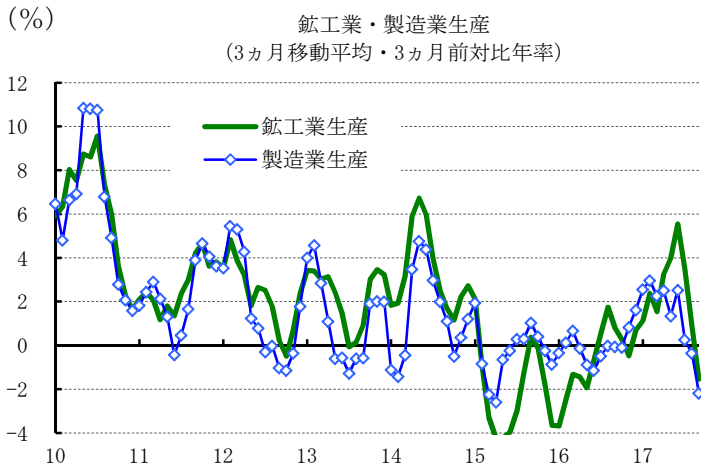
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

除けば前期比年率+0.5%拡大したとFRBがみているように、生産活動の拡大基調に変化はないと判断される。

3ヶ月移動平均・3ヶ月前対比年率では、製造業生産が▲2.2%（前月▲0.4%）、鉱工業生産が製造業の減少幅の拡大によって▲1.5%（前月+0.9%）とマイナスに転じたが、ハリケーンによる一時的な下振れである。

生産活動は10-12月期に上振れる見込み

10-12月期の生産活動は、ハリケーンによる下押し圧力の剥落に加えて、復興・復旧需要などの強まりによって高い伸びが見込まれる。なお、鉱工業・製造業生産活動の拡大基調は、内外需要の拡大傾向や、原油価格の安定等を背景に増加するものの、高い水準のドル実効レートの影響を受け、緩やかなペースを続けると予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。